フォームチェンジング

明 印名

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
フォームチェンジング

【Ｎコード】
Ｎ８１５３Ｙ

【作者名】
明　印名

【あらすじ】
主人公が目覚めるとそこは暗闇の中だった。腕には見たことない時計があった

ちょっと冷静すぎる主人公が冒険に出るお話

その洋服はどこにある？

その手には何時の間にか握られていた。
じっと眺めても思い出せず、気がついた様に辺りを見回した。

「ここは、いったい？」

彼の一言目はそれだった。

周りを見てみよう、眼前にあるのは暗闇とかなり上から何かによって照らされている光だ。
どうやら蔵か穴の中らしい。

らしいと言うのは時折、光がチラチラと動くので建物の中なのか、落し穴のような物の中なのか判断がつかないからだ。

まずは彼にスポットを当ててみよう。

彼の名前は「久留破　倫」（　くるは　りん）

現在大学一年生　専攻は経営学

その倫だが、少し前には確か自室の机でレポートをやっていたはずだ。その時はフリースのラフな格好だったのだが。今の姿は、何故か知らないがニットのパーカーとデニムと言う出で立ちでそこに寝ていた。

手には時計みたいな物がはまっていて、ボタンが全部で８つある。
　もちろん、大学生の倫は自前の腕時計位はあるのだが、今腕にあるそれは自分の物とは似ても似つかない形だったのだ。
確かここにくる前は何も持ってなかったはずなんだが？

ふと、彼は思った、今までは冷静に居れたが自分はいったいどこにいて何故こんなすがたでここにいるのかわからなくなった。

その洋服はどこにある？（後書き）

ゆっくりやるのでよろしくお願いします

その洋服はどこにある？～2～

今まで異常に冷静でいれたが、焦り出すと思考の波が止まらなかった。

まず、家はどうした？
自分の足で出てきたのではなく、何時の間にかここにいた。

「拉致られたか？」

しかし、ワザワザ服を着替えさせて時計をはめるような、犯人は聞いたことがない。
それに家はそこまで金持ちでもないし、確か寝る時には鍵が掛かっているか確認して寝たんだから絶対ないだろう。どっかに連れ出されるなんて…。

しかし、今はこの状態。

改めて今の状態に疑問に思っていると

【状態チェック】

頭の中で言葉が、流れて時計が光だした。
そこにはフォログラム化された自分の姿に身につけている物の情報が載っていた。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

装備一覧

頭：なし
体：ニットパーカー
足：デニム
腕：なし
靴：裸足

総攻撃力　２５
総防御力　５０

獲得スキル

なし

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

「なんじゃこりゃ！？この装備やスキルとかってまるっきりゲームの世界じゃん？？」

倫は混乱した。目が覚めると変な装置が腕にあり、頭の中で念じた言葉が流れたら自分の装備状態や獲得スキルの情報が出たのである。普通にこんな事が起きれば誰でも混乱すると思うが、更にはどこかわから無いところに現在軟禁されている。これで現状を受けいられる程倫の頭はめでたく出来ていないのだ。

それに数値の方もよく分から無い、総攻撃力２５とあるが成人男性の普通が２５だとするとかなり弱くそして、着ている洋服の防御がかなり高めに設定されている服装である。

試しにパーカーを脱いで先程のように念じて見た。

【状態チェック】

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

装備一覧

頭：なし
体：なし
腕：なし
足：デニム
靴：裸足

総攻撃力　２５
総防御力　２０

獲得スキル

ストリップスーツ

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

パーカーを脱いでみたが、　やっぱりパーカーの防御力が半端ない数値だった。普通のパーカーにしか見え無いのにやたら数値が大きかったのだ。

それに「あら？自分で脱いだ、だけなのだがスキルが獲得されている。しかも、どう見ても使えなそうだ。」

とりあえず、焦って動かないよりは動き回った方が良さそうだし、時計が使えそうだと気づけただけよしとして、何処からか出れないだろうか？

ようやく、倫は出口を探しはじめたのだった。

その洋服はどこにある?～2～（後書き）

ＰＣにて内容を少し改定

その洋服はどこにある？～3～

まずは壁伝いに自分の横を探って見た。
すーっと伸ばしてみるんだが、中々届かない。

「あれ？そこまで、広い印象は無かったのにまだ届かない。」

もうちょっと体を傾けて見たが、倒れそうになりようやく、壁を発見した。

横に３m位空間が続いているようだ、上はと言うと、背伸びしてもジャンプしても届かない、相当高いようだ。

横やら上やらとりあえず手の届く限りで動くのだが、何も起きずそれから数分間もぴょこぴょことやってると天の声が聞こえてきた。

［おぬしはいったい何をしてるのじゃ？］

「うわっ！？」

［何を驚いておる？わしはずっとおったぞ？］

「それじゃ、何で話しかけてこなかったんだよ！！」

その声は、少し考えてから言った。

［おぬしを観察してたからのっ！］

倫は少しよろけしまった。

もちろん、コケたわけではなくその場で眩暈を覚えたからである。

「ずっと見てたって、こんな暗い中で見えるわけがない！！それに、何のために観察してたんだよ！」

［なかなか興味深いからのぉ、おぬしら種族はでき無いこともできるようになると信じてる所があるからの］

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

まぁ、まずは状況を説明してやろう。

おぬし、今は囚われておる！
訳あって服はわしが着替えさせたがの。

腕時計があるだろう？まずどれでも良いからボタンを押してみよ！

倫は色々言いたいことがあるが、天の声に従ってボタンを押した。

押してみると驚くことに沢山の服や、衣装と呼べるような物から、倫がいつも着ていた物もあまであった。

倫は、天の声に向って質問をした。

「何でこんなにあるんだよ」

［それはお前さんの力じゃ、着替えることによりおぬしはその衣装や洋服にあった力を得る。もちろん、スキルもじゃ！］

倫は天の声の言っている意味が分からなかった。ここは日本だろ？何故ゲームのような力とか必要なんだ……？？

絶句してる倫を尻目に天の声は、話しを続けた。

［簡単に説明しよう、まずここはお主が居た時代より少しだけ発達した現在じゃ。近々、戦争が起きるみたいじゃからの召喚されたようじゃぞ？？心配するな元の現在では、お前さんは居なかった事になってるからのぉ。］

ゴチャゴチャな頭に更に意味不明な事まで説明され、内心説明になってねぇ！と、ツッコミをいれながら現状把握に思考を割いた。

その洋服はどこにある？～3～（後書き）

時間遅くなってしまった。少し話がループしてるかもですが、ようやく動き出します。宜しくお願いします！

その洋服はどこにある?～4～（前書き）

遅くなりましたが、何とか一章に当たる部分が書けました。

その洋服はどこにある？～４～

一先ず、纏めてみよう。

起きたてみたら、そこは変な穴？の中で何処からか声が聞こえる。その声が言うにはこの世界へ召喚され、始めに思った通り軟禁状態らしい。そして時計型の装置から力？として衣装や服を貰ったと。

　今ひとつ理解に難しいが、今はそんな状態らしい。
とりあえず適当に服を選んでみた。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

上から

ハット
システムベスト
ウールのＴシャツ
カーゴパンツ
ワークブーツ

総攻撃力　５４０
総防御力　８００

獲得スキル

１：アンノーン

２：アンノーン

３：アンノーン

４：アンノーン

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

「あれ？スキルがアンノーンになったぞ？」

「それはそうじゃゃ、使ったことない物の情報がでるわけないじゃろ？」

「それって意味なくないか？」

「まぁ、戦争が起きれば分かるから気にするでない」

「とりあえず、スキル１を使って見るがいい」

「使うってどうやるんだよ！！」

「まぁ、俗に言う念じるって奴じゃ」

よく分からなかったが、言われた通りに念じてみた。

（インデプラント・ボム！！）

ドガアアアアアアアアアアン！！

すっごい音と共に空間が砕け散った。
それも、盛大に壁まで粉々になっているのだ！！
いくらか自分にも被害があった、壁が飛び散った為に埃が掛かり辺りを少しの間白くぼやけさせた。それだけでも威力が凄い事が分かった。

粉々になった先（通路だったので、明かりがついていた。）そして、言われたとおりに、念じて空間が破裂してからずっと沈黙している天の声に話しかけてみたが返事は無かった。

「本当になんだよ、もう…。」

とりあえず、広がっている通路を見回した。何か飾り細工が施されている様な明かりがついているだけのどこにでも在りそうな通路だった。一先ず自分が着ていた服が合った事に安堵しながら、倫はとにかく外へ出れないかと歩き回ることにした。

その洋服はどこにある？～４～（後書き）

普通の小説より短く読み応えが無いかもしれませんが、読んでくださる方ありがとうございます。筆者は小説を書くこと自体が初で章自体は短い構成で作っております。とりあえず、ストックが出来次第投入していきたいと思います！お願いします。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n8153y/

フォームチェンジング

2011年12月7日01時58分発行